

総務委員会行政視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 委員会名及び視察者名

■ 総務委員会

委員長：畑中 ゆう子

副委員長：中村 千佐江、

委員：徳留 八郎、神脇 清照、羽田野 徳寿、綿屋 善明

2 視察先・調査項目及び日時

■ 都城駅

日時：令和5年6月9日（金） 10:00～11:10

令和5年7月10日（月） 14:00～15:00

調査項目：人口減少社会における地域公共交通の在り方について

3 視察の内容

■ 都城駅舎の利活用の可能性について

以前、行政視察を行った小林市地域・観光交流センターKITTO（きっと小林）のような駅舎の利活用の可能性を探る目的で視察を実施。

1階の旧観光協会があった空きスペースや、2階の会議室を主に見学。

現地では、九州旅客鉄道株式会社 宮崎支社 企画運輸課の職員の方から詳細な説明をいただいた。

4 委員感想等（別紙添付）

5 添付資料

■ 視察の状況（写真）



総務委員会行政視察報告書（感想等）

令和5年7月11日

委員名 畑中 ゆう子

1 視察の感想

都城駅を2回にわたり、視察見学させて頂きました。

本駅は、日豊本線と吉都線における本市の玄関口であり、市民の鹿児島・宮崎への通勤、通学に重要な役割を果たしています。現在、都城駅は鹿児島支社公共交通課の管轄となり、駅長1名・社員3名で管理運営されているとのことでした。

現在、本駅には鉄道施設として2階建ての建物があります。1階には、居酒屋として経営されていた空き店舗、正面改札左側は観光協会が道の駅ニクルに移転したあと事務所が空いたままとなっています。

今回、空き事務所となった、観光協会が使っていた事務所と、2階にある会議室を見せて頂きました。観光協会が使っていた事務所は、都城駅の看板となる場所であり、宮崎市のアミュプラザが貸室として物件を取り扱っているそうです。

2階の会議室は、駅の鉄道施設として管理されており、普段は使用されていないそうです。約24坪ほどの広さで、非常用の階段もあり、窓の広い明るい会議室でした。

今回2回にわたり、総務委員会として都城駅を視察させて頂き、ふだんの駅の様子をみる事が出来ました。

駅のホームは高齢者の方がたに、ご利用いただけるよう、バリアフリー化も完了しており、日常的に使ってもらえるようにアクセスすることや、子どもたちや地域の皆さんが普段使いできるように、鉄道施設の活用方も考えてみるべきだと思いました。

2 視察の成果及び市政への反映等

都城駅は、吉都線の始発駅として、中高生も毎日利用しています。下校する子どもたちが、列車の待ち時間を有効活用できるような、スペースとして鉄道施設を利用する事ができれば、とても便利だと思います。まちなかスペースとして図書館が高校生に利用されていますが、学校によっては駅のスペースのほうが便利に使ってもらえる学生がいると思います。

三股駅も無人駅ですが、バス停として活用されており、駅スペースも地元の皆さんが有効活用できるようになっています。そのために人の配置もされており、公共交通も利用しやすくなっています。

JRの職員の方の姿がなくなり、売店が無くなった駅の風景は、殺風景なものとなりました。小林市・えびの市のように、公共交通の要としての駅のあり方を見直していくためにも、人の配置が必要だと考えます。

以上

総務委員会行政視察報告書

委員名 中村 千佐江

1 視察の感想

平日昼間の利用客が思うよりいて、この人たちが快適に過ごせるスペースを設けることは、やはり必要だと思った。

年々閑散とする一方の都城駅から観光協会も転出し、人の気配がますます減るのではと危惧しているのだが、乗降客だけでない、駅の利用者を増やす仕掛けがあればよいと考える。

2 視察の成果及び市政への反映等

今回の視察は、大きな目的の一つである2階会議室を見学することができず、持ち越しになったため、市政に反映させる提案をまとめる段階には至っていないが、JRの方々とはざくばらんに打ち解ける時間が取れたことは大きな成果であると考えます。

市（行政）と議会が、車の両輪に例えられるのと同様、インフラは、民間と行政が、同じ方向を向いて協力し合っていることであり、議会としても、一方的に要望を突き付けるだけでなく、本音ベースで実情を把握し、互いに歩み寄る姿勢が必要である。

引き続き調査を続ける中で、JRとの信頼関係を築いていきたい。

総務委員会行政視察報告書

委員名 中村 千佐江

1 視察の感想

先月に続く2回目で、JRの方々も、こちらも、何がしたいのか明確に判っていて、良かったと思った。同じところを2度視察する機会はなかなかないが、たまたまとはいえ、丁寧に回数を重ねて視察をする機会が与えられ、民間と意識をすり合わせていくことができ、委員会内でも自然な形で方向性を共有できて、非常に有意義であったと思う。

暑い中、何度もお時間をいただいたJRの方々には心より感謝の意を表す。

2 視察の成果及び市政への反映等

前回持ち越しとなった2階会議室は、想像していた以上に、自分たちのイメージに近いものであったと感じた。小林市で圧倒されたフリースペースに近いものが供用できるのではないかと考える。

JR都城駅には、吉都線で通学する高校生というニーズが将来的にも確実に存在している。彼らが利用し続けることと、新たな利用客（沿線住民以外の学校の友達など）を呼び込むことが、今後の存続に向けてのカギになる。電車の利用を増やすことはもちろん、駅のみ利用客が増え、「駅前＝市の顔」の賑わいを創出することも大事な視点である。

JR側も協力的な姿勢を見せてくれている今、フリースペース供用に向けて具体的かつ現実的、そして建設的なプランを、議会から提案したい。

公共交通機関を考える。

1. 日時 令和5年(6月9日金)と(7月10日火)の(2回)調査
2. 場所 都城駅内と駅舎について。

感想

- (A) 都城駅舎は前市観光協会が借りて、1Fの正面左側で約41m²ある。1Fから空室2Fと正面外部より見て右側の部屋で約72m²ある。これら二ヶ所を借用するとなると、リフォーム代がいくら値でどちらが借用するかによって利用が定まらと思われる。(借料共に)。いずれにしても便利の良い所(空室)である為に利用者は益々増加すると思われるがリフォーム代等至費面次第ではなか。
- (B) 西都城駅に是非設置の希望が多くありエレベーターについては都城駅は日豊本線上に(2本)設置にあり。志都線の上に(1本)設置にあり。上、下移動は大変楽で便利がお客の為に良い。しかし西都城駅構内には1ヶ所もエレベーターは設置なく非常に設置の要望が厚い。高齢者、身体障害者対策上も早期設置が望まれる。

令和5年7月12日(水)

鹿城市議会(総務委員会) 徳留 八郎

統務委員会視察報告書

委員名 神脇 清照

都城駅舎視察

令和5年6月9日(金) 7月10日(月)

案内説明者

九州旅客鉄道株式会社 宮崎支社 企画運輸課

駅舎内において1階はコーヒー店が1店舗開業しているが、以前賑わっていた飲食店が閉店しており、又、観光協会の事務所も新設された道の駅「NIQLL」へ移転して空室に空いているため人の出入りが少ないようである。

令和4年12月20日にえびの市、小林市への視察において、各駅舎では携帯電話会社が出張サービスや2階の空室をリフォームして展示会や音楽ライブ、スポーツ教室、又、高校生が勉強等の利用スペースとして幅広く利用されている。構内においても空き地を活用してのレンタカー常駐設置、観光交流センターの併設等、駅周辺の「にぎわい」の創生にも繋がっている。

都城駅舎においては1階が2室、2階は約24坪の部屋が長年利用されておらず、今後は鉄道利用者促進、路線バスの接続、観光サービスの利便性等を図るため、統務委員会としても早急に取組まなければならぬ案件である。

総務委員会行政視察報告書

委員名 羽田野 徳寿

1 視察の感想

今回は、閉会中の「所管事務継続調査」にて「人口減少社会における地域公共交通の在り方」を調査する上で、JR 都城駅を視察させて頂いた。

【視察背景】

令和4年12月20日に「地域公共交通の現状と課題について」の行政視察の際に、JR 小林駅に隣接する「小林市地域・観光交流センターKITTO 小林」を視察した。

2階建てのこの施設は、1Fに観光協会が入り、その中には無料開放の交流スペースが設けられていた。又、館内通路を隔てたバスセンターにも無料開放の交流スペースがあり、公共交通を利用する沢山の学生達が、勉強や会話を楽しんでいた。

2Fは、2つのスペースに間仕切りが可能な広い交流スペースとなっており、有料の貸し切りも可能となっており利用率も非常に高いとのことであった。

【視察目的】

視察したKITTO 小林を参考にして、存在感の薄れているJR 都城駅の駅舎をリニューアルすることで、利活用を図り、注目を浴びることで駅舎の利用者の増から公共交通利用者の増につなげることができるのかJR 都城駅の視察を行った。

〔1回目視察：6月9日、2回目視察：7月10日〕

視察対応：九州旅客鉄道㈱ 宮崎支社企画運輸課長ほか1名

企画運輸課～鉄道に関する駅の全体（ヒト・モノ・カネ）の管理を担当。

1 駅舎の耐震状況

～十分な耐震性を有する。

2 空きスペースの状況

- ・1F～駅構内正面の左手になり、市観光協会が6月一杯使用していた。

約19坪、エアコン有り。簡易台所有り。トイレ無し

現状で使用できる出入口は、東側の構内から。

〔JR九州のアミュプラザが管理している。〕

- ・2F～東南の角で日当たりの良い部屋であり、会議室となっている。

現在は災害時の待機用にも使用しているが、借用可能とのこと。

約21坪、エアコン有り。水回り無し。

〔JR九州が管理している。〕

※東側の外階段は、腐食が激しく、降り先が1Fホーム内であるため使用は不可能と考える。

3 市の借用の可能性について

～可能性有り。

借用等要望の際は、JR九州に対してどのような利用をしたいか具体的なイメージがわかるような提案が必要であるとのこと。

駅舎内は「鉄道」管理エリアとテナントなど「事業開発」管理エリアが存在。

当面の間の要望窓口は、企画運輸課で良い。

【視察のまとめ】

今回の視察により、JR 都城駅は、耐震性を十分有しており、リニューアルすることで「KITTO 小林」のように JR やバスから乗降してくる学生の時間調整のための勉強等の居場所としても地域の交流の場としても有効に活用でき、駅が賑わうことで公共交通利用者の増にもつながると感じた。

将来的には JR 都城駅が市の玄関口として注目され、他の公共交通との接続地点としての役割を果たし、地域の文化や歴史が共有できるような場所であってほしいと思う。さらに災害時には JR 都城駅舎を緊急避難的に利用するなど、地域に無くてはならない施設となれることを再認識し、今後の新しい地方駅の形として整備していく必要があると感じた。

※おかげ祭りの際にも、新たな駅舎の灯りがさらなる賑わいに一助すると考える。

- 1F 元観光案内所～外部の確認が容易なガラス張りとなっているため、さらに整備することで、バスや迎えの車を待つ学生などのために有効な無料開放の交流スペースとなる。水回りも整備されているため、冷水器などの提供も可能である。
- 1F 待合室～自販機も設置され、机などを整備することで1Fの元観光案内所と有機的な利用が期待できる。
- 2F 会議室～東南の角であり、採光も良く地域の交流の場としても様々な利活用が期待できる。LED 照明も設置されている。
- 2F 講習室&トイレ～隣接する2F会議室と合わせて有効利用が可能であり、さらに横の老朽化したトイレを改修することで2Fの利用率向上が期待できる。

総務委員会行政視察報告書

委員名 綿屋 善明

1 視察の感想

当初、都城駅舎の視察ということだったが、2Fの空室を見ることはかなわなかった。それでも、駅舎が国鉄時代に建造（昭和49年10月定礎）されたにも関わらず、耐震は問題ないということ。また、今回視察を予定していた2F会議室が、7～8年間使われていなかったことなどを確認することができた。

また、都城市観光協会の移転により、本市における鉄道の玄関口である都城駅から観光案内所がなくなることを危惧されたJR九州様のご配慮で、デジタルサイネージが設置され、本市の観光案内に一役かって頂けることに、心から感謝の思いでいっぱいだ。

この他、ホームにエレベーター設置すること等の聞き取りを行った。設置にあたって、JR九州側から依頼することはない、とのこと。各自治体が中心になって設置を実施する、ということも分かった。

2 視察の成果及び市政への反映等

【会議スペースの利活用について】

日南市では、駅舎を市が買い上げ空きスペースにコミュニティースペースを設けた、との情報を得た。「待つ駅」から「行く駅へ」。新しいまちの居場所が誕生、といったコンセプトを掲げ、畳や机いすを設置し自由に会話できる空間は、ちょっとした会話の場に最適である、と感じた。

以前、医療的ケア児・者の講演会に参加した際、場所が宮崎空港ビル内の会議スペースだったことを思い返した。旅客機を降りてそのまま会議に参加し、終了したらそのまま帰路につくことができる。これは、そのまま鉄道にも当てはまる。時間のロスをなくす観点から、空港や駅にレンタルスペースを設けることは意味のある事に思う。また、先の日南駅のように、コミュニティースペースを設け、友人とゆっくり語らったり、学生が電車を待つ時間を学習にあてることができれば、より「行く駅」さらに、「人が集まる駅」へと変化していくように思う。

【一時避難施設としての機能】

JR九州担当者のお話によると、旧国鉄時代の建物は大変堅固なつくりになっており、大きな地震にも十分耐えうる、とのことであった。昭和49年の竣工と旧耐震基準以前の建物ではあるが、先の言葉を信用すれば、将来、空きスペースを吉都線利用者で帰宅困難者が発生した場合、一時待機場所として活用することも検討できるかもしれない。

以上

総務委員会行政視察報告書

委員名 綿屋 善明

1 視察の感想

6月9日(金)、7月10日(月)の2度にわたって、JR 都城駅を視察しました。建屋自体が昭和40年台に建設されたもので老朽化や耐震性が心配されましたが、担当者から「旧国鉄時代のものは堅牢なつくりになっている」との答えに安心しました。

今回の視察は、“人の集まる駅”が“電車の利用者増”につながるの思いから、駅舎の空きスペースを市民に開放することはできないか調査するために行いました。終始、どのような質問にも丁寧に応対される担当者の誠実さにまずもって感謝いたします。併せて、駅舎2Fは鉄道施設として、現在の社内規定では市民開放が難しいとのことでしたが、これも、使いたいという意向であれば調整に取り組む、といった前向きな発言もいただきました。重ねて感謝いたします。

議会が新たな街の在り方を提示し市民に問うというカタチを学ぶことができました。今後、吉都線の利用促進に向けた提言の取りまとめに少しでも貢献できるよう研鑽を重ねたいと決意しております。

2 視察の成果及び市政への反映等

① 駅舎1Fの利用について

これまで都城観光協会が使っていた空きスペースは、南に面しており明るく自由に人の出入りができる間取りになっている。やや狭いという印象はあるものの、テラスのようなテーブルを設ければ、電車を待つ間に学生の学習や市民の休憩に役立つものと考えられる。

② 駅舎2Fの利用について

南に面しており、都城市総合文化ホールへ続く通りを見通せる良い条件の部屋だった。現在は、災害時に鉄道の点検等をする際の会議や職員の休憩・待機場所として活用しているとのこと。市が使用を希望すれば、JR九州宮崎支社としても前向きに検討する、とのこと。吉都線の始・終点であり、鹿児島と宮崎の中継地である都城駅内に会議スペースを設けることは、本駅周辺の活性化にもつながる取組として期待できる、と考える。

《課題》

JR九州から駅舎を借り受けの際の賃借料が課題である。いくらぐらいになるかと担当者に聞いたが、にわかには答えられないようだった。今後、駅舎の活用によって市の経済効果が見込まれるかどうか、さらに調査していきたい。